地域密着型サービス事業者　自己評価表

（　認知症対応型共同生活介護事業所・　小規模多機能型居宅介護事業所　）

事　業　者　名	グループホームはる こでまり	評 価 実 施 年 月 日	平成21年10月5日
評価実施構成員氏名	猪股久美、堀民子、能登浩子、石垣枝智子、塚越利恵子、佐々木美恵子、吉田和子、米澤秀人、原田妙子		
記　録　者　氏　名	猪股久美	記　録　年　月　日	平成21年10月6日

北　海　道

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念がある。	○	理念に向け、日々取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づいたケアが行えるよう、ユニット玄関に掲示し、グループホーム会議やカンファランスなどで話し合われ、職員全員確認している。	○	今後も理念を忘れず理念に沿ったケアを提供していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ユニット玄関に掲示し、来訪した家族やボランティアがみやすいようにしている。しかし、地域の人々までの浸透にはいたってない。	○	地域の人々と交流を深め、理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時など近所の方々と挨拶はしている。気軽に立ち寄ってもらえるようベンチを設置し、今年は東屋を建てている。	○	東屋が出来たことで、日常的な付き合いをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	盆踊りを開催したり、廃品回収に古新聞を提供している。近隣に保育所があり、定期的に交流をしている。今年度はボランティアの導入を行っている。	○	毎年町内会のバスレクや街路樹の花植えなどに参加しているが、悪天候と風邪にて今年は参加できなかったので、来年は積極的に参加していきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	交流はしているが、役立つことについては取り組んでいない。	○	今後検討し、できれば取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の結果を改めて確認、反省し今後に活かし改善するよう取り組んでいる。自己評価は、ユニット内で読み合わせすることで、気付かなかった点や再確認することなど自分の見直しができている。	○	前回の評価結果では、地域との交流が不足がちとのため、東屋を建設し、気軽に立ち寄ってもらい、交流できるようしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自己評価や外部評価の結果は必ず報告し、意見を聞き、改善などしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者の運営推進会議への参加はないが、制度上わからない事などについては、出向きアドバイスを受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については、グループホーム内で学習会を開催し、理解に努めている。	○	これからも、学んでいき知識を向上していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	グループホーム内での学習会、法人内での研修、また外部への研修などで学び虐待防止に努めている。また、グループホーム内に委員会を設置し、話し合われ、さらなる防止に努めている。	○	これからも、外部研修などにも参加し、学んでいき知識を向上していきたい。
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	入居時や退居時には、質問など聞き、分かりやすいように説明している。	○	今後も続けて行きたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の思いを聞き、カンファランスなどを通し、職員間で共有している。また、法人内では苦情の委員会や第3者委員会が設置されている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	体調不良時には、看護職員を中心に報告している。普段の様子は、月１回広報誌の発行や面会時など伝えている。金銭管理については、希望者のみ預かり、毎月集計し、出納表を作成し、渡している。	○	家族とコミュニケーションを行い、さらに信頼関係を築いて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情があった際には、速やかに検討を行い、全職員に報告し再発防止に努めている。家族との懇談会があり、意見をきいている。	○	常に意見を聞く姿勢で努めて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやグループホーム会議で意見交換をしたり、個々にコミュニケーションをとっている。	○	これからも継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	昨年よりは、職員数は確保されている。3ユニット兼務職員の役割を各ユニッの状況に合わせ、検討している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職数は減少している。ユニット及び法人内異動は年に1～2回である。その際、敏感な入居者に関しては、すぐには関わらないなど配慮している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内では年計画をたて、学習会を開催している。法人内では、職員の経験年数や職種別などに分け、様々な内容で研修を行っている。また、道のグループホーム協議会の研修などにも参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、管内や市のグループホーム協議会の役員会で交流している。また職員は外部の研修や交流会などに参加し、交流している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日々悩みなどを聞くようにしている。親睦会もあり、ストレスの解消の場となっている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個人面談を行い、1年間の目標の設定や希望など聞き取り組んでいる。また、正職員補充の際は、現職員の中からなれるようにしている。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前に自宅に伺い、環境が変わることでの不安を軽減できるようよく話を聞き、本人の思いを受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人同様家族の思いもよく聞き、職員と共有している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、介護保険の認定を受けているかを確認し、受けていなければ申請を勧め、場合により手続き方法を説明している。また、すぐに、入居できなくサービスを利用していなく、サービス利用の必要性がある場合は、相談先や手続きなどを説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の前には、見学をしてもらい、どのような環境であるかを知ってもらうなどしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に尊敬の念を持ち、接している。日々の中で昔のことなど教えてもらい、学ぶことが多い。また、カンファランスなどで本人中心の話し合いを行っている。	○	もっと時間をかけて、かかわっていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	焼肉パーティーや誕生会などに参加してもらったり、会話をもち、より良い関係がづくりをしている。	○	今後、交流を増やして行きたい。また、馴れ合いにならにように接していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お互いに対する思いを聞きながら、家族関係がどのようなものなのかを理解したうえで、それぞれに合わせ支援している。	○	これからも継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	子供の頃暮していた所など、なじみの場所にいったりしているが、一部の人に限られている。	○	なじみの場所や人は、本人にとって思いも強く大切なものなので、途切れることなく、生活の一部としていけるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとりのペース、入居者同士の相性などを見ながら、職員が間に入り、良い関係でいる事が出来るよう配慮している。	○	入居者同士、自然に会話や笑い合える関係作りをしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し、解約になっても、次の行き先が決まるまで相談したり、見舞いにいったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント １．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々一人ひとりの思いを聞き、カンファランスなどで、本人中心のケアが行えるよう話し合っている。重度で聞くことができない人は、表情やしぐさで感じ、話し合いをし検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前のフェイスシートや家族からの情報を聞き、共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタル測定、朝と夕の申し送り、記録、申し送りノート、カンファランス等で把握している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を確認し、主治医の意見の参考、ケアワーカーと看護師がカンファランスを中心に検討し、作成している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に本人の状態の変化を細かく把握し、カンファランスを行い、見直しをしている。また、心身の変化がある場合は、期間を関係なく見直しをしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、排泄板やパソコンに残し、共有している。しかし、ケアプランに沿った記録など、まだ足りない。	○	ケアプランに沿った記録を、充実していきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の事業所との交流をしている。また、出来るだけ要望に応じ、買物などにも出かけている。	○	本人の希望する時に支援できるようにしていきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアドッグ、保育所、ボランティアグループの来訪などがある。また、避難訓練は消防署の協力を得て、おこなっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見について、地域包括支援センターに相談している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれ主治医がおり、受診・往診を受けている。主治医との連携は、看護師中心に行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	看護師を中心に、主治医と相談し行っている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常勤でおり、中心に健康管理をし、日々ケアワーカーと相談し行っている。	○	医療分野の知識をさらに深めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には看護・介護添書にて、認知症の症状やケアのポイントを伝え、入院時の見舞い、退院時には話し合いをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	管理者、看護師、家族、主治医と相談し、今後の方針を決めている。また、職員間ではカンファランスなどでその人にあった、苦痛のない生活が出来るよう話し合い支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	カンファランスなどで十分に検討し、全員で現在の最良のケアが提供できるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居する際は、以前の暮らしが継続できるよう、家具や仏壇などを置き、ダメージを受けないようにしている。また、退居の際も今までの環境やケアが継続できるよう詳しく情報交換を行っている。	○	これからも継続していきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	親しみをもった言葉がけにも、尊敬の念を忘れないようにしている。言葉遣いには、十分気をつけている。	○	ゆっくりした声がけ、対応を今後も心がけていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常の会話から思いを汲み取り、また言い出しやすい雰囲気づくりをしている。質問はその人その人に合わせ、2者選択や動作などから選んだり、返答できるよう支援している。	○	本人の希望をもっと聞き取っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にしているが、職員側の都合で待ってもらったり、誘導したりすることがある。	○	ゆったりと、本人ペースを大切にしていきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の服を決めてもらったり、外出時には化粧をしている。なじみの美容室に行っている人もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューを考える時は、入居者に意見を聞きたてている。嫌いな物がある方は、代替の食事を提供している。また、味噌汁作りや食事の盛り付け、食器拭きなどが役割の方もいる。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつなどは好みのものを食べている。家族が用意している方もいる。飲酒や喫煙については、体調（主治医の指示）にあわせ楽しんでもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表でパターンを把握し、声がけ、誘導などをし、失敗しないように援助しているが、失禁する場合もある。	○	今後もパターンの把握、紙おむつ（パット）などの排泄用品の工夫をし、今の状況を瞬時に検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	往診や受診日に合わせ、入浴日をきめているが、本人のその日の体調や気分に合わせている。また、入浴回数や一番風呂、一人入浴などの希望にも対応している。	○	今後はもっと本人の希望に沿った入浴をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠できるように夜などは時間を伝えたり、日中の休息は声をかけている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や散歩、歌を歌うなど、出来ることや興味のあることを引き出し、役割がもて、喜びとなるよう支援している。	○	楽しみごとなどが増えるようもっと取り組んで行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分でお金を管理できる方は、管理し、出来ない方はグループホームで管理し、買物に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来る限り希望に沿って出かけたいという希望に沿って一緒に出かけているが、困難なときもあり、日を変えたりして対応している。	○	もっと外出できる機会を作って行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日には、行きたいところを聞き、家族も一緒に行っている。また、ユニットでは季節にあった外出をしている。	○	今後はもっと個別に行きたいところに、いけるようにしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話を設置し、家族と話している方や、家族と手紙のやり取りをしている人がいる。その際には、ポストにだすなどの支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人の訪問時は、居室や居間など希望の場所でゆっくり過ごせるようにしている。誰でも気兼ねなく訪問できるよう笑顔で迎えている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内やグループホーム内に委員会が設置され身体拘束について話し合われている。また、法人内の研修会や学習会、外部の研修等で、身体拘束をしないケアについて学んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜勤者が一人になる時間帯は、安全の為施錠している。日中は鍵をかけることはない。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室で過ごす際には、さりげなく訪室し様子をみたり、転倒事故がないように配慮し、職員同士声を掛け合いながら安全に配慮している。	○	転倒事故があるので、なくなるようにしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミや針などの危険な物は、状況に応じて見守りや声がけをしている。一人ひとりの状況をアセスメントし、原因を分析し対応している。	○	できるかぎり事故をなくしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故がおきた際は、インシデントやヒヤリハットにて報告し、再発防止策を立てている。また、法人やグループホーム内には委員会があり、事故防止に取り組んでいる。また、研修や学習会もある。喫煙者がいるため、火の始末に関しては十分に気をつけている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や事故発生時のマニュアルがある。また、研修会や学習会で学んでいるが、特に夜間などは不安である。	○	不安解消のため、いつでも落ち着いて対応できるようにマニュアルを頭に入れ、シュミレーションをしていく。また、学習会なども身につくよう頻度を増やしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を行っている。地域とは、法人と町内会で協力体制について話し合われている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	その都度必要に応じ、説明を行っている。事故にならないよう、職員で連携しあいながら対応策を検討している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルを測定、生活状況や様子の変化に、早期に気がつけるよう観察し、職員間で申し送りなどで共有している。また、介護職員は気がついたことは看護師にすぐに伝えている。	○	これからも、常に情報の共有に心がけ速やかな対応ができるよう取り組んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	使用している全ての薬の目的等は理解できていないが、大切な薬や薬の変更時には看護師から詳しい説明がある。また、カルテに処方箋が綴られていることは、全職員に周知している。	○	薬の勉強をし、少しずつ把握していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分を多く摂ったり、食物繊維の食材を使用したり、体操や散歩の運動を日常の中に取り入れ、予防している。しかし、便秘が改善されなく下剤を内服している人もいる。	○	今後も予防をしていき、快適な排便につなげていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後歯磨きを行っている。しかし自力で行う方の把握ができないことがある。	○	無理なく、仕上げができるよう支援していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ミキサー食や小さくきったり、水分量が少ない人にはゼリーなどの工夫、野菜不足の人には野菜ジュースなど提供している。また盛り付けの量など個々に合わせ行っている。	○	今後も個々に合わせ、行って行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	外出後手洗い、うがいをし、マスクを着用している。毎日手すりの消毒を行っている。感染に対するマニュアルがある。また研修会や学習会をしている。インフルエンザの予防接種を毎年行っている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	ふきん、まな板は毎日消毒をしている。冷蔵庫の清掃も定期的に行っている。食材は、出来るだけ毎日届くようにしており、賞味期限を確認している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	正面玄関前には、プランターで花を植えたり、休憩できるようなベンチや東屋を設置している。ユニット玄関には、季節を合った飾りつけをしている。	○	今年東屋を建設したので、東屋を通じて近所の方々と交流したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	クリスマスツリー、桜のはななど季節の飾りをしている。共有の空間では、テレビの音や職員の声の大きさに気を配り、日光などはカーテンで小まめに調整し、配慮している。	○	もっとユニット内に季節のものを飾り、季節感や生活観を出して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間には、ソファー、食卓椅子、畳（小上がり）があり、自ら選択し、過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇、タンス、好きなぬいぐるみなど、以前から使用しているものや好みのものを家族と相談し、置いている。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室やユニット内の湿度･温度は1日4回行い調整している。掃除の際には窓を開け換気をし、臭いが気になると事には、コーヒーかすをおき、消臭をしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内は玄関と小上がり以外、バリアフリーとなっている。また手すりを設置している。エレベーターがあり、階段は、歩きやすい高さになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員間で、日常の様子で出来なくなったこと、少し工夫すればできることを検討し、機能の低下を少しでも緩和できるようにしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には東屋、屋上にはテラスがあり、散歩や焼肉など楽しんでいる。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

Ｖ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
・定期的にカンファランスを開き、些細な変化も見逃さず、現状のサービスに満足しないで常にどうしたらその人のためになるのかを検討し、ケアに当たっていること。又一人ひとりが自分のペースで過ごしている事。
・常に一人ひとりの思いや認知症や体調面で今何が必要かを全職員が知ることで最善のケアを行っている。
・ホスピスケアに取り組んでいる。
・職員の研修に力を入れている。